

転落？石垣？見極めが肝心！

はっぴーがわら版

第5号

20150106

明けましておめでとうございます。史跡小牧山も新年の清々しい空気に包まれています。今年も小牧山城の調査と整備が一層充実したものになるよう、取り組みたいと思います。



主郭北東斜面 石垣石材の転落状況

発掘調査は、調査区のほぼ全面について表土の掘削が終了しました。石垣が崩れて転落した石材の転落状況を写真等で記録し、いよいよこれから転落石を取り除く作業が始まります。転落石といえども、元は石垣を構成していた貴重な石材、文化財です。一つ一つ、石の形状を確認し、崩れて元位置から動いてしまったものか、元位置を保っているのかを慎重に判断しながら、崩れてしまった石だけを取り除いていきます。

取り除いた転落石は、左の写真のように調査箇所ごとにまとめて、墨書や刻印の有無などを確認してから仮保管しています。

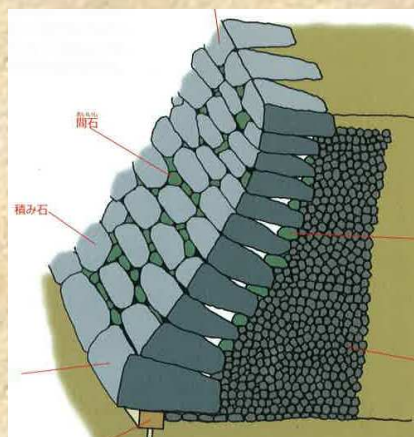


転落石・裏込石の仮保管状況

発掘ひとくちメモ

～裏込石とは？～

本文中に登場した裏込石とは、右図のように石垣の背後に詰められた石（栗石、ぐり石とも）のことです。裏込石には石垣にかかる荷重を分散し、雨水による石垣の崩壊を防ぐという重要な役割があります。



『城のつくり方事典』三浦正幸著（小学館より）

調査中ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします

小牧市教育委員会